

令和 4（2022）年度

教職課程

自己点検評価報告書



東京未来大学

令和 5（2023）年 2 月

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	4
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	4
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	15
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	26
III	総合評価	40
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	41
V	現況基礎データ一覧	42

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：東京未来大学
- (2) 学部名：こども心理学部
：モチベーション行動科学部
- (3) 所在地：東京都足立区千住曙町 34 - 12
- (4) 教職課程の状況

こども心理学部こども心理学科 こども保育・教育専攻
幼稚園教諭一種免許状
小学校教諭一種免許状

こども心理学部こども心理学科 通信教育課程
幼稚園教諭一種免許状
小学校教諭一種免許状

モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科
中学校教諭一種免許状（社会）
高等学校教諭一種免許状（公民）

- (5) 学生数及び教員数（令和4年5月1日現在）

学生数：こども心理学部こども心理学科	こども保育・教育専攻	773名
こども心理学部こども心理学科	通信教育課程	1,086名
モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科		290名
教員数：こども心理学部	教職課程科目担当	20名
モチベーション行動科学部	教職課程科目担当	9名

2 特色

本学の教育理念は「技能と心の調和」である。専門的知識や技能を十分に持ち、併せて心豊かな人間性を育む教育を施すことにより、真に社会に貢献できる人材を育てることをその教育目標としている。

これは、教員養成に対する理念にもそのまま通じるものである。すなわち「確かな教育技術を獲得し、併せて、児童・生徒の心を深く理解し、こころに働きかけることのできる」教員養成こそが本学の教員養成の理念であり目標となる。

本学の名称にある「未来」という概念の対象は、個人であれ、組織・集合体であれ、人間社会のいずこにも存在する。その中で本学ははじめに、少子高齢化時代の現代において最も注目されている「子ども」の未来に視点を置き、平成 19（2007）年 4 月に、こども心理学部のみを有した単科大学として開学した。以来、子どもの豊かな成長を担う人材の養成に力を注いでおり、これに直接的に寄与するものとして、幼稚園教諭一種免許課程（平成 19（2007）年）及び小学校教諭一種免許課程（通信教育課程：平成 21（2009）年、こども保育・教育専攻：平成 23（2011）年）を設置している。

さらに平成 24（2012）年度には、企業や教育機関、地域コミュニティといったあらゆる人間や集団の行動や環境を正確に理解し、周囲の人々の行動を活性化することのできる人材の養成を行っていくことを目的として、モチベーション行動科学部を設置。同時に教員養成の対象も初等から中等教育へと拡大してきた。

東京都においては、団塊世代教員の大量定年退職に伴う、大量採用が当面続いていく傾向にある。本学が立地する足立区においても、教育振興ビジョンの中で、学校の適正規模、適正配置を強力に進める中、教員に対する需要は質・量ともに高いと言える。東京都教員人事育成基本方針では、教員採用において、量の確保と同時に「東京都の教育に求められる教師像」に合致する質の高い人材の確保をその課題として上げている。ここで求められる教師像とは、①教育に対する熱意と使命感をもつ教師、②豊かな人間性と思いやりのある教師、③子どもの良さや可能性を引き出し伸ばすことができる教師、④組織人としての責任感、協調性を有し、互いに高めあう教師、としている。

本学の教育理念と、それを実現するための教育課程・手法によって、このような地域と時代の要請に応えることのできる教員人材の養成が可能になると考え、取り組んできたところであり、さらに推し進めていこうとするものである。

■東京未来大学 教員養成の目的

教育課程の理念

本学の掲げる教育理念「技能と心の調和」と教育目的「高度な専門的知識・技能、人間性豊かな心、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献できる人材を養成する」を基軸に、確かな教育技術を獲得し、併せて子どもの心を深く理解し、「こころ」に働きかけることのできる教員養成を目的とする。

こども心理学部こども心理学科 こども保育・教育専攻
こども心理学部こども心理学科 通信教育課程

幼稚園教諭一種免許状
小学校教諭一種免許状

近年顕著に見られる子どもを取り巻く諸問題について、子どもの心理の適切な分析に焦点を当てながら、人格形成の基盤となる乳幼児期・児童期の発達段階における子どもの心身の特徴を把握し理解しつつ、最新の教育学及び心理学の理論と実践的な技術を用いて各視点からアプローチすることにより、理論と実践の両面を育むカリキュラムを通じて、人格に関する深い知見、子どもとのコミュニケーション能力、教育者に必要な最新の指導力・実践力、子育てのための援助技術力、地域の中での子育ての相談役になる能力などを修得した教育者の養成を目的とする。

モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科

中学校教諭一種免許状（社会）
高等学校教諭一種免許状（公民）

社会において、組織やチーム、コミュニティの一員として求められる「組織成員として組織の健全な発展に貢献するモチベーション」、「他者を理解し円滑な対人関係を志向するモチベーション」、「広い関心と学びへのモチベーション」を学び理解することにより、自己を含め所属する集団や組織、地域・社会とその成員に対して影響力を与え、活性化することができる人材を養成するという教育目標を踏まえ、教師としての崇高な使命を自覚し、常に自己研鑽に励み、青少年に生きる力を育む実践的指導力を身につけた教育者の養成を目的とする。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

①教員養成の目的、教職課程の理念を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、養成を目指す教師像とともに学生に周知している。

〔現状説明〕

本学は、教育理念である「技能と心の調和」に基づき、高度な専門的知識・技能の修得と、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材の養成を教育の目的としている。この目的は本学ディプロマ・ポリシーに反映され、具現化するための方針がカリキュラム・ポリシーに定められている【資料 1-1-1】【資料 1-1-2】。

本学の教職課程は、上述の教育の目的を実現する教育課程として、こども心理学部及びモチベーション行動科学部に設けられている。したがって、両学部が目指す教師像は根幹を共有している。すなわち、教員としての確かな教育技術を修得し、子どもの心理を深く理解し、働きかけることのできる教師像である。この教師像に基づき、各学部で以下の教師の養成が目指されている。

こども心理学部は、幼稚園教諭及び小学校教諭の養成を担い、そこで目指される教師像は、人格に関する深い知見や子どもとのコミュニケーション能力、教育者に必要な最新の指導力・実践力、子育てのための援助技術力、地域の中での子育ての相談役になる能力などを修得した教師である。

モチベーション行動科学部は、中学校教諭（社会）及び高等学校教諭（公民）の養成を担い、そこで目指される教師像は、心理・コミュニケーション、経営、教育にわたる専門的な知識を修得し、常に自己研鑽に励み、青少年に生きる力を育む実践的指導力を身につけた教師である。

以上の本学が目指す教師像は、「学生便覧・履修の手引き」に明記されており、学生に周知されている。

【資料 1-1-2】【資料 1-1-3】

〔長所・特色〕

1 年次よりガイダンスを行っている。ガイダンスでは、卒業生を招いた講話を行うなど、学生の教職への理解を深めている。

〔取り組み上の課題〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-1-1 : 本学公式ウェブサイト
- ・資料 1-1-2 : 学生便覧・履修の手引き (通学)
- ・資料 1-1-3 : 学生便覧・履修の手引き (通信教育課程)

②養成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。

〔現状説明〕

本学では、教職課程の理念に掲げる教師の養成を達成するために、(1) 関係教職員による教職課程の共通理解の浸透、(2) 保育・教職センターを中核組織とした教職課程教育の計画的実施が実現されている。

(1) 関係教職員による教職課程の共通理解の浸透

本学では、教職課程の理念と各学部が養成を目指す教師像を「学生便覧・履修の手引き」「東京未来大学教員ハンドブック」に明記し、関係教職員が参照できるよう整備されている【資料1-1-1】【資料1-1-2】。

教職課程の理念は、教職課程科目担当教員の授業計画において具体化されていく。本学では、シラバス作成時に教職課程担当科目教員が教職課程コアカリキュラムの内容を含めた授業計画を作成するよう「シラバス作成要項」に明記するとともに、各科目の専門性の近い専任教員が第三者の視点からチェックを行い、必要があれば修正をした上で、学内外に公開している【資料1-1-3】【資料1-1-4】。

さらにカリキュラム・マップ、科目ナンバリングを作成し、本学公式ウェブサイトに公表することで、各学部の教育体系の編成を関係教職員、学生が共有している。

中でも、こども心理学部では、幼稚園教諭一種免許カリキュラム・マップ及び小学校教諭一種免許カリキュラム・マップを個別に作成し、関係教職員と学生が各種免許の修得に必要な科目を体系的に把握できるよう整備している。

モチベーション行動科学部では、学部のカリキュラム・マップに教職課程に関わる学びを課程外科目として明記することで、関係教職員と学生が免許の修得に必要な科目を体系的に把握できるよう努めている【資料1-1-5】。

(2) 保育・教職センターを中核組織とした教職課程教育の計画的実施

本学の教職課程教育は、保育・教職センターを中核組織として年間を通して計画的に実施されている。具体的には、各学部・専攻におけるガイダンスの実施、教育実習の適正な実施、関係機関との連絡・調整・協議、教員採用試験対策講座の実施、「実習の手引き」の作成、学生指導等である【資料1-1-6】。

〔長所・特色〕

本学では、「保育・教育実習委員会」、「保育・教職課程委員会」を毎月定例で開催し、教職課程に関わる計画並びに教育実習に関わる学生指導の方針等を適宜、関係教職員にて共有している。また、教職課程FD研修を全学FD研修と共同で行うことによって、全教職員に教職課程教育を周知している。

〔取り組み上の課題〕

モチベーション行動科学部では、学部に所属する教職員組織が3つの領域（心理・コミュニケーション、経営、教育）に区分されているため、現況では教育領域以外の教職員に

対し、教職課程教育の計画的実施に関する十分な理解を得ることが困難である。よって、モチベーション行動科学部における教職課程教育の計画及び実施に関する発信内容及びその方法が課題となっている。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-1-1：学生便覧・履修の手引き
- ・資料1-1-2：東京未来大学教員ハンドブック
- ・資料1-1-3：シラバス作成要項
- ・資料1-1-4：自己点検評価書
- ・資料1-1-5：本学公式ウェブサイト
- ・資料1-1-6：東京未来大学保育・教職センター規程
幼稚園教育実習・保育実習の手引き
教育実習（小学校）の手引き
教育実習の手引き（中学校・高等学校）

基準項目 1 - 2 教職課程に関する組織的工夫

①教職課程の運営に関して全学組織（保育・教職センター（保育・教育実習委員会、保育・教職課程委員会））と学部・学科・専攻等とで適切な役割分担を図っている。

〔現状説明〕

本学では、保育・教職センターを教職課程の中核組織と位置付け、保育・教職センターの構成員（正副センター長 2 名、所属教員 9 名）と教職課程科目担当教員が連携を図りながら、以下の業務を行っている【資料 1 - 2 - 1】。

- (1) 保育士資格取得に必要な保育実習及び教育職員免許状取得に必要な教育実習（介護等体験、ボランティア実習含む）の適正な実施、並びに履修学生への指導・支援に関する業務。
- (2) 保育実習及び教育実習（介護等体験、ボランティア実習含む）の実施機関、関係機関及び組織等との連絡、調整及び協議等に関する業務。
- (3) 現場体験及びボランティア活動に関する指導・支援に関する業務。但し、地域連携活動に係るものは除く。
- (4) 現場体験及びボランティア活動の実施機関との連絡・調整に関する業務。但し、地域連携活動に係るものは除く。
- (5) 保育士資格及び教育職員免許状に係る就職支援に関する業務。
- (6) 学外実習、現場体験、ボランティア活動、及び就職支援の全学的調整に関する業務。
- (7) 保育士養成課程及び教職課程の教育課程編成に関する業務。
- (8) 保育士養成課程及び教職課程に関係する学外の機関及び組織等との連絡、調整及び協議等に関する業務。
- (9) 教職課程に係る FD 活動及び自己点検・評価活動に関する業務。
- (10) センター紀要の編集発行に関する業務。
- (11) その他センターの目的を達成するために必要なこと。

〔長所・特色〕

本学の保育・教職センターは法令で義務化される以前から設置され、教職課程の充実を図っている。令和 4（2022）年度には保育・教職センターが主催となり全教職員に対して教職課程 FD 研修を開催した。また保育・教職センター構成員が、全国私立大学教職課程協会や関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会が実施する研修会、分科会に参加することで一層の教職課程の充実化を図っている。

さらに本学では、保育・教職センター、教務委員会、通信学務委員会が相互に連携をとりながら教職課程の適切な運営を図っている【資料 1 - 2 - 2】。

〔取り組み上の課題〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

資料 1-2-1 : 東京未来大学保育・教職センター規程

資料 1-2-2 : 本学公式ウェブサイト

②教職課程認定基準を踏まえた教員を配置するとともに、主に「教職に関する科目」の運営においては、研究者教員と実務経験のある教員との協働体制を構築している。

〔現状説明〕

本学は、教職課程認定基準に基づいて教員を配置するとともに、教育職員免許法施行規則に定める各科目区分（「領域及び保育内容の指導法に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」）の複数の授業において実務経験のある教員を配置している【資料1-2-1】【資料1-2-2】。

〔長所・特色〕

保育・教職センターには、幼稚園、小学校、中学校等で豊富な実務経験を有する特任教員が所属している。「教育実践に関する科目」では、実務経験を有する特任教員と研究者教員の協働体制のもと、各教職課程の教育実習事前・事後指導から教育実習、教職実践演習まで学生の一貫した学びが図られるよう計画・運営されている【資料1-2-3】。

〔取り組み上の課題〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-2-1：学生便覧・履修の手引き
- ・資料1-2-2：シラバス
- ・資料1-2-3：本学公式ウェブサイト

③教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、ICT 教育環境の適切な利用が可能となっている。

〔現状説明〕

教職課程教育を行う上での施設・設備については、図画工作室、音楽室、理科室、調理・保育実習室、体育館、グラウンド、ピアノレッスンルーム等といった施設を設置している。体育館とグラウンドは、六町キャンパスとして独立した施設が整備されている。さらに、令和 4（2022）年 4 月からは新校舎 C 棟の利用が開始され、ラーニングコモンズや保育実習室が新たに設置された。

各教室にはプロジェクタやスクリーンを配備して、ICT を活用した授業運営に取り組んでいる。全館無線 LAN ネットワーク環境が整備され、適切な ICT 教育環境を構築している【資料 1-2-1】【資料 1-2-2】。

〔長所・特色〕

学生全員に対しノートパソコンの配布を行い、教育の ICT 化に積極的に取り組んでいる。また新型コロナ対策に伴う遠隔授業への対応として、令和 2（2020）年、学生へモバイル Wi-Fi を貸し出すなど、非常事態にも柔軟に対応した。保育実習室は、学生が実際の教育現場に近い環境のもとで模擬保育を行うことができる特色ある設備である。

〔取り組み上の課題〕

図書館にて貸し出しを行っているノートパソコンがあるが、老朽化が進み動作が不十分である。アップデート、買い替えなどが望まれる。

ICT 教育の推進に伴い、電子黒板や電子教科書の導入と、これらの ICT 機器・教材の使用が可能な教室環境の整備が望まれる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1-2-1：学生便覧・履修の手引き（通学）
- ・資料 1-2-2：新入生オリエンテーションのご案内

④教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD（ファカルティ・ディベロップメント）の取り組みを展開している。

〔現状説明〕

本学では、教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートを活用しており、その一環としてベストティーチャー賞を設け、アンケートにおいて優秀な評価を得た教員を表彰している。教職課程に特化したFD研修を毎年実施し、教職課程の課題、授業運営の方法などのテーマを扱いながら、専任教員、保育・教職センター特任教員、非常勤講師などを含めた研修活動を行っている【資料1-2-1】。

法令で定める教職課程の情報公開についても本学ホームページ上の情報公開ページにて毎年度更新し、常に最新の情報を掲載している【資料1-2-2】。

〔長所・特色〕

令和4（2022）年度より義務化される教職課程の自己点検評価については、保育・教職センター内における保育・教職課程委員会が中心となり、各教職課程の在り方や改善について組織的な見直しが行われている。

〔取り組み上の課題〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

資料1-2-1：FD研修式次第

資料1-2-2：本学公式ウェブサイト

⑤教職課程に関する情報公表を行っている。

〔現状説明〕

本学の教職課程の情報公表については、現在本学のホームページ「教員養成に係る情報の公表」において、「教育職員免許法施行規則第 22 条の 6」に定められた情報公表義務に基づき、下記内容とともに教員免許状取得者及び教員としての進路も含めて公表している。

- (1) 教員養成の目的
- (2) 教員養成に係る組織（保育・教職センター、教務委員会、通信学務委員会）
- (3) 教員養成に係る授業科目
- (4) 教員養成に係る授業担当者の学位及び授業科目に関する業績
- (5) 授業の内容（シラバスへのリンク）
- (6) 年間授業計画
- (7) 教員免許状取得状況
- (8) 教職課程履修者の就職状況

【資料 1-2-1】 【資料 1-2-2】

〔長所・特色〕

本学では、保育・教職センターが中心となり、教員免許にかかわる実習実績と実習報告を総括し、「保育・教職センター報」にて公表している。

〔取り組み上の課題〕

本学の「教員養成に係る情報の公表」はホームページ「東京未来大学 情報の公開」の一項目として公開されている。今後は、本学の教職課程の全学組織である保育・教職センターを独立したサイトの項目として設置し、保育・教職センターサイト内にて「教員養成に係る情報の公表」を行うことが課題である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 1-2-1：本学公式ウェブサイト
- ・資料 1-2-2：保育・教職センター報

⑥全学組織（保育・教職センター等）と学部・学科・専攻とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているか、させようとしている。

〔現状説明〕

本学では、全学組織である保育・教職センターと学部・専攻が連携し、教職課程の現状把握を行っている最中にある。

令和4（2022）年度より、保育・教職センターのもとに保育・教職課程委員会が組織され、教職課程の在り方についてカリキュラムの見直し等の検討に着手している。また、個々の授業改善や授業評価アンケート、外部研究会を通じて教職課程の改善に取り組んでいる。

【資料1-2-1】【資料1-2-2】【資料1-2-3】

〔長所・特色〕

本学では保育・教育実習委員会と保育・教職課程委員会が並立しており、両委員会には保育・教職センター特任教員と、こども心理学部、モチベーション行動科学部の教職課程科目担当教員が構成員として配置され、全学的教職課程の問題を把握し、必要に応じて、個別指導による問題解決を行っている。

〔取り組み上の課題〕

履修カルテを用いた学生の学修成果の把握がなされているが、保育・教職センターを中心とした組織的な学修成果の見直しについては、今後の課題である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料1-2-1：保育・教育実習委員会の議事録
- ・資料1-2-2：保育・教職課程委員会の議事録
- ・資料1-2-3：教職オリエンテーション・ガイダンスのスケジュール表

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

①教員を目指す学生に対して教員養成及び教職課程履修に関する適切な情報提供を行い、希望に応じて履修を開始できる体制を整えている。

〔現状説明〕

こども心理学部こども心理学科こども保育・教育専攻では、1年次春学期終了時に履修モデル選択を行っており、学生は小学校教諭一種免許状を主として取得する小幼履修モデル、幼稚園教諭一種免許状及び保育士資格を取得する幼保履修モデルのいずれかの希望を表明し、1年次秋学期より希望に応じた履修を開始できる体制を整えている。この履修モデル選択に向けて、各種ガイダンスやキャンパスアドバイザーとの個別面談等を通じて情報提供を行っている。

モチベーション行動科学部でも、各種ガイダンスやキャンパスアドバイザーとの個別面談等を通じて適切な情報提供を行い、教職課程履修希望に応じて履修を開始できる体制を整えている。また、両学部とも、入学時点から「大学案内パンフレット」、「本学公式ウェブサイト」、「学生便覧・履修の手引き」、及びスタートアップセミナー、教務ガイダンス等を通じて適切な情報提供を行い、履修に向けての体制を整えている。

【資料 2-1-1】 【資料 2-1-2】 【資料 2-1-3】

こども心理学部通信教育課程では、「募集要項」、「本学公式ウェブサイト」、「学生便覧・履修の手引き」にて、教職課程履修に関する適切な情報提供を行っている。3年次編入生に関しては入学時にコース分けがなされるため、教職コース入学者全員に対して、入学の前後に書面や学習支援システム（CoLS「Communication and Learning System」の略称、以下「学習支援システム（CoLS）」という。）でのお知らせ機能を利用し、履修開始に関する通知を適宜発信している。1年次入学生に関しては3年生への進級前に教職課程履修の意志を大学に届け出る形となっているが、これを逃した場合に3年生の後期以降からでも開始できるよう複数回にわたり情報提供している。

【資料 2-1-4】 【資料 2-1-5】 【資料 2-1-6】

〔長所・特色〕

本学では少人数教育体制で学生1人1人へのきめ細やかな指導が行われており、教員を目指す学生に対して、教職課程科目担当教員、保育・教職センター特任教員、キャンパスアドバイザーの協働体制により、教員養成及び教職課程履修に関する適切な情報提供と学生指導を行う体制が整えられている。

〔取り組み上の課題〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：大学案内パンフレット
- ・資料2-1-2：本学公式ウェブサイト
- ・資料2-1-3：学生便覧・履修の手引き（通学）
- ・資料2-1-4：大学案内パンフレット（通信教育課程）
- ・資料2-1-5：本学公式ウェブサイト（通信教育課程）
- ・資料2-1-6：学生便覧・履修の手引き（通信教育課程）

②教職課程履修学生に対し、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、履修継続のための適切な指導を行っている。

〔現状説明〕

こども心理学部こども心理学科こども保育・教育専攻及びモチベーション行動科学部では、教職課程科目担当教員、保育・教職センター特任教員、キャンパスアドバイザーの協働体制のもと、教職課程履修学生の教職に対する意欲や意思の確認が適宜、行われている。学生の教職に対する意欲が低下し、履修継続が難しいと判断される場合は、保育・教育実習委員会にて審議し、学生への適切な指導が行われているかを組織的に検討している。

【資料2-1-1】

こども心理学部通信教育課程では、学生の特性上、全員を対象とした個別面談等はないが、キャンパスアドバイザーが窓口となり、電話やメール、希望する場合は面談にて学生の状況や特性に応じた履修継続に関する相談に応えている。また、学習支援システム（CoLS）を利用した動画でのガイダンスを実施しており、学生が繰り返し動画を確認しながら、履修を継続することができる仕組みを整えている。

【資料2-1-1】

〔長所・特色〕

本学では、学部・専攻別にクラス制を導入し、キャンパスアドバイザーと専任教員のクラス担任を配置している点に特色がある。そのため、キャンパスアドバイザーが中心となって実施する学生面談において、学生1人1人の学修状況や教職に対する意欲を把握することができ、履修継続のための適切な指導を行うことができている。

【資料2-1-2】

〔取り組み上の課題〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：大学案内パンフレット
- ・資料2-1-2：本学公式ウェブサイト

③「履修カルテ」を活用する等、学生の適性或資質に応じた教職指導を行っている。

〔現状説明〕

こども心理学部こども心理学科こども保育・教育専攻及びモチベーション行動科学部では、1年次より教職オリエンテーション（ガイダンス）を実施し、教育実習に臨む心構えや実習要件等を学生が把握した上で、教職への適性を省察する機会を設けている。教職課程科目担当教員、保育・教職センター特任教員による学生の適性或資質の把握は、教育実習事前・事後指導及び教育実習を通じて継続的に行われており、学生の適性或資質に課題がみられる場合は、教職課程科目担当教員、保育・教職センター特任教員、キャンパスアドバイザーの協働体制のもと、速やかに教職指導が行われている。

履修カルテについては通信教育課程の学生も含め、教職を目指す者全員が定期的に大学に提出し、学生・大学が相互に状況を把握し、不足している知識や技能を補うために役立っているほか、「教職実践演習」の授業でも活用されている。

【資料2-1-1】【資料2-1-2】【資料2-1-3】

〔長所・特色〕

教職課程科目担当教員、保育・教職センター特任教員、キャンパスアドバイザーの協働体制が確立していることで、学生についての細かな情報共有がなされており、その結果、教職指導においても適切かつ的確な学生指導体制が整えられている。

〔取り組み上の課題〕

教職に係る科目、並びに教育実習事前事後指導、教育実習、教職実践演習のすべてを網羅した教職指導を行うために、履修カルテをさらに有効的に活用することが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：大学案内パンフレット
- ・資料2-1-2：本学公式ウェブサイト
- ・資料2-1-3：シラバス

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

①学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。

〔現状説明〕

本学では、教職課程科目担当教員や保育・教職センター特任教員、キャンパスアドバイザーが以下のような機会を通して、学生の教職に就こうとする意欲や適性の把握に努めている。

小学校教職課程では、2年次より行われるボランティア実習の指導や評価を通して、学生の教職に就こうとする意欲や適性の把握に努めている。また、教職課程の授業や教育実習指導では、教職に対する理解を深める機会、自己の適性について振り返る機会などが多く与えられ、そうした自己省察の機会を通して意欲や適性の把握に努めている。

幼稚園教職課程では、教職に就こうとする学生に対して、教育実習の履修前に「開拓ガイダンス」を実施し、参加する学生に教育実習を全うする意欲や適性があるか否かを把握している。また、教育実習事前事後指導を通して、幼稚園教諭として必要な知識や技能が身につけているかを確認し、教職への意欲や適性を把握している。

中学校・高等学校教職課程では、ボランティア実習は行われていないが、その他は同様に、学生の教職に就こうとする意欲や適性の把握に努めている。また、全ての教職課程において履修カルテの活用、各種教職に関するガイダンス、キャンパスアドバイザーとの個別面談等を通して、意欲や適性の把握に努めている。

【資料 2-2-1】 【資料 2-2-2】 【資料 2-2-3】

こども心理学部通信教育課程の教職志望者は、3年次編入生が大半を占める。編入にあたっては出願時に小学校教諭一種免許コース・幼稚園教諭一種免許コース等いずれか一つのコースを選択する仕組みとなっている。通信教育課程の学生は社会人学生であり、教職を目指すにあたっては将来的に現職を辞すことを意味する。その覚悟をもって入学しているため、教職に関連するコースの学生全員が高い意欲を持っている。ただし1年次入学生においては3年生への進級時に教職を希望する旨を大学に届け出るため、入学後に学友の姿などをみて教職志望に転じるケースも少なくない。したがってオンライン上のガイダンスや教育実習指導(事前)において、教職に対する心構えや責任などについて指導をしている。適性の把握という点に関しては教育実習指導(事前)におけるレポート課題を細かくチェックするほか、小学校教職課程においては基礎学力調査を実施し、基準点に満たない学生に対して個別の指導を行っている。

【資料 2-2-1】

〔長所・特色〕

教職課程科目担当教員、保育・教職センター特任教員、キャンパスアドバイザーの協働体制が確立していることで、学生についての細かな情報共有がなされており、その結果、教職に就こうとする意欲や適性を把握する体制が整えられている。

〔取り組み上の課題〕

特になし

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料2-2-1：シラバス
- ・資料2-2-2：実習の手引き（小学校・中（高等）学校、介護等体験、ボランティア）
- ・資料2-2-3：幼稚園教育実習の手引き

②学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。

〔現状説明〕

本学では、保育・教職センターを中心とし、キャンパスアドバイザー等とも連携を取りながら、以下のような取り組みを通して適切なキャリア支援を行っている。

小学校教職課程では、1年次では一日小学校体験や4年次生の学内研究授業への参加、キャンパスアドバイザーによるキャリアガイダンスなどにより、教職に就くことや教員採用試験までの過程をイメージできるようにしている。2年次ではさらにイメージを高めるために、小学校全科と教職教養、一般教養の筆記試験を課しているほか、3年次生の小学校教員採用試験模擬面接の見学、筆記試験対策講座への参加等の機会を作っている。また、本学独自の取り組みであるボランティア実習が2年次から開始され、1年次の体験とは異なり、定期的に小学校現場に入ることで、教職に就くことへの意識を高める一助になっている。3年次では、引き続きボランティア実習での現場体験で研鑽を積むほか、秋学期に実施する教員採用試験対策講座（全14回）の中で小論文や面接、集団討論、模擬授業等について学ぶ機会を設定している。4年次では、春学期に全14回の対策講座、夏期休暇期間中に二次試験対策講座を保育・教職センター特任教員を中心に実施している。

幼稚園教職課程では、1、2年次においては、キャンパスアドバイザーによるキャリアガイダンスや個別面談を、3、4年次では保育・教職センターによるセンター講座や模擬面接、ピアノレッスンを実施するなど、適切なキャリア支援を組織的に行っている。

中学校・高等学校教職課程では、キャンパスアドバイザーによるキャリアガイダンス、現職教員を招いての特別講座、教員採用試験対策講座等、適切なキャリア支援を実施している。

【資料2-2-1】【資料2-2-2】【資料2-2-3】【資料2-2-3】

通信教育課程では学生の特性上、実施することのできるキャリア支援に限られるが、夏休み期間中の教員採用試験二次試験対策講座を実施し、希望する学生に提供している。また、外部組織と連携し、教員採用試験対策講座を希望者に対して割引価格で案内している。ほか、在学生や教職志望の卒業生のメーリングリストを活用して、各学校・園の求人情報を配信することも日々行っている。また、3年次より開始される教育実習指導(事前)の受講機会を3回に分け、都度、教職に対する心構えや責任について指導している。その上でレポートを提出させ、学生の教職に就こうとする意欲・適正の確認に努めている。

【資料2-2-2】

〔長所・特色〕

教職に就くための専門的な支援を提供する保育・教職センターと、学生生活の中で学生個々をサポートするキャンパスアドバイザーの協働体制が図れており、これが組織的にキャリア支援を行えている要因である。また、保育・教職センターには現場経験が豊富な人材が揃っており、教職へのキャリア支援の質を高めることができていることは、本学の最大の長所であると言える。

〔取り組み上の課題〕

特になし

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料2-2-1：学生便覧・履修の手引き
- ・資料2-2-2：シラバス
- ・資料2-2-3：実習の手引き 小学校・中（高等）学校
介護等体験 ボランティア
- ・資料2-2-4：幼稚園教育実習・保育実習の手引き
- ・データ：履修モデル選択報告書
春学期小学校教員希望者向けキャリアガイダンス及び対策
秋学期小学校教員希望者向けキャリアガイダンス及び対策
小学校教員採用試験に係る二次対策講座の実施について
春学期中・高教職課程履修希望者実習・キャリアガイダンス（1年生
対象 2年生対象 3年生対象）
足立区教育実習連絡協議会実施概要
学校体験・ボランティア受け入れのお願い
小学校就職希望者学内模擬試験タイムスケジュール

③教職に就くための各種情報を適切に提供している。

〔現状説明〕

本学では教職に就くための情報提供を学習支援システム（CoLS）や掲示板を通して行っている。教員採用に関わる情報提供は、学生が必要なときに必要な情報を適宜得ることができるように工夫している。保育・教職センターでは、教員採用に関わる各種情報（幼・小・中・高）をファイリングし、いつでも情報を得られるようにしているほか、現場経験豊富な特任教員が個別の相談にも適宜応じながら、適切な情報提供を行っている。

【資料2-2-1】

〔長所・特色〕

教職に就くための各種情報を保育・教職センターに一元化させることで、学生が利用しやすい環境が整えられている。また、同センターに所属する特任教員には、教育現場での教員経験が豊富な人材が揃っており、学生が教職に就くための適切な情報を得るだけでなく、様々な相談にも応じることができている。

〔取り組み上の課題〕

より最新の情報を得るための仕組みづくりが課題として挙げられる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1：学生便覧・履修の手引き

④教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。**〔現状説明〕**

教員免許状取得件数を高めるために、分母となる教職課程履修学生数を安定確保することが重要となる。これについては、基準項目2-1に記載した取り組みを通し、1年次から4年次まで一貫したサポートを行うことで、教員免許状取得件数を高める工夫に繋がっている。教員就職率を高めるために、教員免許状取得件数を安定させることと並行し、教職の魅力ややりがいを感じられるような情報提供、現場での学び等を充実させることが重要となる。これについては、基準項目2-2に記載した取り組みを通し、1年次から4年次までの体系的なキャリア支援を行うことが、教員就職率を高める工夫に繋がっている。

〔長所・特色〕

現場での教職経験豊富な人材が揃う保育・教職センター、教職課程に係る授業を行うことも心理学部及びモチベーション行動科学部、学生生活を手厚くサポートするキャンパスアドバイザーの三者の連携、協働体制が確立されていることで、基準項目2-1及び基準項目2-2に掲げた取り組みが実現できていることが、教員免許状取得件数や教員就職率を高めるためにも大きな長所となっている。

〔取り組み上の課題〕

学生が自主的に教材研究や教員採用試験対策の準備を行えるよう、保育・教職センターを中核とした人的配置及び環境整備が課題である。

<根拠となる資料・データ等>

特になし

⑤キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。

〔現状説明〕

こども心理学部では毎年同窓会を実施して、教職に就いている卒業生を集わせ、現場経験のある特任教員からの講話や、卒業生同士の情報交流の場を設定している。さらに卒業生の現場経験から得た声を学生に伝える機会を設定して、現場感覚や現場のイメージをより具体的にもてるようにしている。また教職実践演習の授業やキャリアガイダンスに、卒業生を講師として招聘し、先輩講話を実施している。

【資料2-2-1】

地域との連携においては、地域連携推進委員会を中心に毎年地域の小学校と連携して複数回イベントを行い、積極的に地域の多様な人材との関わりを深めている。

【資料2-2-2】

〔長所・特色〕

開学してからの歴史が浅い本学ではあるが、上述したような卒業生や地域の人材との連携が図れていることは、地域に根付いた大学としての佇まいが着実に浸透しており、本学のキャリア支援にとっても大きな長所となり得るものである。

〔取り組み上の課題〕

連携校や卒業生が就職している学校、幼稚園などとさらに連携を深め、学生にとって有効かつ充実したキャリア支援になるよう、具体的な連携のポイントなどを共有する機会を設定し、情報交換するための時間をつくる必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-2-1：シラバス
- ・資料2-2-2：学生便覧・履修の手引き
- ・データ
 - ：クリスマスフェスタチラシ
 - ：こどもみらい祭チラシ
 - ：同窓会のお知らせ

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

①教職課程認定基準を踏まえ、学部・学科等における授業科目の開設、並びに複数の教職課程を通じた授業科目の共通開設を行い、適切な教職課程カリキュラムを編成している。

〔現状説明〕

こども心理学部では、学部のディプロマ・ポリシーを達成することが、幼稚園、小学校の教員になるために必要な教職課程を履修することにも通じる。したがって、こども心理学部の「専門教育科目」に開設されている科目の多くが、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状の取得に必要な科目となっている。

こども心理学部こども心理学科こども保育・教育専攻では、1年次より幼保履修モデルまたは小幼履修モデルのいずれかを選択し、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格、もしくは幼稚園教諭一種免許状と小学校教諭一種免許状の取得を目指すことになる。そのため、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「大学が独自に設定する科目」の複数の科目が、幼保履修モデルと小幼履修モデルの共通開設科目となっている。

通信教育課程においては保育士課程が存在せず、学生は小学校教諭一種免許状及び幼稚園教諭一種免許状のいずれか一方または両方の取得を目指す。したがって、幼・小の教職課程において、教育職員免許法施行規則上の「教諭の教育の基礎的理解に関する科目等」に該当する一部科目を共通で開設している。

モチベーション行動科学部では、中学校教諭一種免許状（社会）及び高等学校教諭一種免許状（公民）取得のための科目である「歴史学」、「社会学」、「政治学」、「経済学」、「法律学」について、モチベーション行動科学部クラスを設置して、専門教育への連携を意識している。また、4年次での中高での教育実習を履修するための条件として、教職課程を履修する学生が3年次終了までに修得すべき必要科目の開講及び修得単位数にかかわる最低条件を設定して、教育実習に至るまでの修学を計画的に実施している。

【資料 3-1-1】

各学部の教職課程カリキュラムの編成は、保育・教職課程委員会を中心に検討を行い、教務委員会、通信学務委員会と相互に連携をとりながら審議・決定を行っている【資料 3-1-2】。

〔長所・特色〕

こども心理学部こども心理学科こども保育・教育専攻では、1年次に一日保育体験や一日小学校体験を実施し、学生が教育現場に触れる機会を設けている。中でも小幼履修モデルは、2年次より足立区の小学校で小学校学習支援ボランティアを開始し、年間 50 時間以上、子どもたちに学習サポート役として向き合う独自のカリキュラムが編成されている【資料 3-1-3】。

〔取り組み上の課題〕

モチベーション行動科学部においても、教員免許状の取得を目指す学生のために、さらにこども心理学部との関連を深めたり、実践現場での体験を増やしたりするなど、教職課程カリキュラムの工夫が必要である。

<根拠となる資料・データ等>

資料3-1-1：学生便覧・履修の手引き

資料3-1-2：東京未来大学保育・教職センター規程

資料3-1-3：こども心理学部パンフレット

②履修要項及びシラバスにおいて、成績評価基準及び各科目の学修内容と評価方法を学生に明確に示すとともに、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。成績評価において平準化を図る工夫を行っている。

〔現状説明〕

本学では、教職課程コアカリキュラムに対応した教育課程を編成し、科目の系統性を履修系統図（カリキュラム・マップ）に示している。また、主体的・対話的で深い学びを実現すべく、プレゼンテーションやグループディスカッション、模擬授業等アクティブ・ラーニングを行い、課題を発見し解決する力を養っている。

教職課程科目のシラバスにおいては、シラバス作成マニュアルに教職課程コアカリキュラムを参照し作成することやコアカリキュラムの内容がシラバスに反映されているかを確認するためコアカリキュラム対応表を確認し遺漏がないように対応している。

教職課程における科目の履修系統を吟味し、建学の精神を具現化すべく、総合的、体系的、有機的な教育を展開している。また、教育目標を踏まえ、教職課程科目の相互とその他の学科科目等との系統性の確保を図りながら、今日の幼稚園・小学校・中学校・高等学校に対応する内容の工夫を行っている。

成績評価においても、各科目の偏りが無いよう平準化の導入を進めている。

こども心理学部では、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状の2つの免許を取得できる教職課程を編成するとともに、ディプロマ・ポリシーに基づく学修指標をシラバスにも明示している。

モチベーション行動科学部では、中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（公民）を取得できる教職課程を編成し、ディプロマ・ポリシーに基づく学修指標をシラバスにも明示している。

〔長所・特色〕

本学では、各種行事を学生の手で企画・運営し、その過程において問題解決能力、コミュニケーション能力を育み、授業で得た知識を実践していく場として教職課程を後押ししている。さらにこれらの行事を、地域住民や子どもたちを巻き込みながら社会貢献をする実体験の場としており、教職課程と融合しつつ本学の教育目的達成のための教育体系の重要な要素となっている【資料3-1-1】。

〔取り組み上の課題〕

教員養成の質を担保しながら、カリキュラムのスリム化や学生並びに教員の負担減を図ることが課題となっている。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：東京未来大学の学び方

③キャップ制を踏まえた上で、教職課程カリキュラムを編成している。**〔現状説明〕**

こども心理学部、モチベーション行動科学部ともに「履修規程」の中で、1学期間（半期）に24単位を上限とするキャップ制を定めている。ただし、本学で定める単期GPA値において、3.5以上の優れた成績をもって修得した者については、上限を超えて1学期間4単位以内の履修登録を認めることがある。

通信教育課程においては、印刷教材授業は1学期間に8科目、面接授業は1年間に10科目を上限とするキャップ制を定めている【資料3-1-1】【資料3-1-2】【資料3-1-3】【資料3-1-4】。

〔長所・特色〕

キャップ制を敷くことで、大学における授業時間の他に予習、復習等の時間を十分に確保し、余裕をもって各授業科目の履修内容の定着を図ることができるようになっている。

また、免許を取得しようとする意欲ある学生については、履修登録上限を超えて履修登録できる特例を設けている【資料3-1-5】。

〔取り組み上の課題〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：学生便覧・履修の手引き
- ・資料3-1-2：東京未来大学学則
- ・資料3-1-3：東京未来大学こども心理学部履修規程
- ・資料3-1-4：東京未来大学モチベーション行動科学部履修規程
- ・資料3-1-5：自己点検評価書

④カリキュラムの充実を図るために、実務経験のある教員やゲストスピーカー等を有効に活用することができている。

〔現状説明〕

本学教職課程では、カリキュラムの充実を図るために、実務経験のある者を非常勤講師として雇用し、様々な授業において実務経験及び専門知識に富んだ者をゲストスピーカーとして招聘し、学外の多様な人材を活用している。

こども心理学部では、小学校教諭経験者（管理職、教育委員会指導主事等含む）、モチベーション行動科学部では中学校・高等学校教諭経験者（管理職、教育委員会指導主事等含む）を非常勤講師として採用している。一方、こども心理学部では「教育実習指導（事前・事後）（小）」、「教育実習指導（事前・事後）（幼）」をはじめ教育現場経験者をゲストスピーカーに招き、モチベーション行動科学部では指導法の一部科目において、中学校及び高等学校の教科書出版社編集担当をゲストスピーカーに招くなど、授業内容及びカリキュラムの充実を図っている。

【資料3-1-1】【資料3-1-2】

〔長所・特色〕

教育現場における実態や教職経験からの実践的理論を学生が肌で感じ取ることができる授業展開を実施している。

〔取り組み上の課題〕

今後、より多くの授業においてゲストスピーカーを活用することが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：本学公式ウェブサイト
- ・資料3-1-2：シラバス

⑤今日の学校における ICT 機器を活用して情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるようなカリキュラムを編成している。

〔現状説明〕

本学では、従来より全学開講の一般教育科目として、「情報科学概論」、「情報処理基礎 I（機器操作を含む）」、「情報処理基礎 II」、「ワープロ総合演習」、「情報処理応用 A」、「情報処理応用 B」などを配置し、ICT 機器を活用して情報活用能力を育てる教育に取り組んできた。さらに、2022 年度よりは、こども心理学部こども心理学科こども保育・教育専攻及び通信教育課程においては「教育の方法と技術」を「教育の方法と技術（情報通信技術の活用を含む）」へと変更、モチベーション行動科学部においては「教育の方法及び技術」に加え「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の科目を設置し、教職課程における ICT 活用能力の育成を最重要視したカリキュラム編成となっている。

通信教育課程においては、開設する授業科目の大部分が ICT を利用した方法で実施されるため、入学前に受講にあたって必要なスキルを取得している必要がある。したがって入学後は「各教科の指導法」や「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」を通じ、学校現場における ICT 活用を中心に学んでいる。また ICT リテラシーのさらなる充実という観点から、一般教育科目の「情報科学概論」、「情報処理基礎 I（機器操作を含む）」を卒業必修とし、加えて「情報処理基礎 II（機器操作を含む）」を開設している。

【資料 3-1-1】

〔長所・特色〕

学校教育現場における ICT 教育の充実化が目指されていることを鑑み、ICT のスキルを学修することに加え、ICT を活用した効果的な授業の在り方、校務・セキュリティへの活用などの授業内容の充実に努めてきた。また、実際の授業での活用においては、授業担当教員が授業の目的を示したり、課題への興味関心を高めたり、授業内容をわかりやすく説明したりするために、指導方法の一つとして ICT を活用している。またその具体的内容をシラバスに明記し、多様な教育の提供や学習環境の向上を図ることを目指している【資料 3-1-2】。

〔取り組み上の課題〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-1-1：シラバス
- ・資料 3-1-2：東京未来大学の学び方

⑥アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。

〔現状説明〕

能動的な学習形態であるアクティブ・ラーニングにおいて特に重要なのは、その活動を支える「問い」である。本学では、教師が投げかけたもの、学生が日頃から火種として温めてきたもの等様々な問いが学生間で反応し合い、展開していく協働活動による授業を展開している。

アクティブ・ラーニングによる多様な教育手法に対応するため、本学のほとんどの教室に大型液晶モニターとパソコンを設置しており、受動的に知識を習得するだけに止まらず、自分で発見し、考え、その上で行動する力量を養うための多様な学びが可能となっている【資料3-1-1】。

〔長所・特色〕

図書館の附属施設“グループ学習室 Sophia”があり、情報共有やディスカッションを可能とする学びのための空間を整備することで、アクティブ・ラーニングやグループワークの授業はもちろん、学生たち自身で主体的・対話的に深く学ぶことも可能となっている【資料3-1-2】。

また、学習支援システム（CoLS）を導入・活用することにより、普段から教員が授業で使用する資料提供や、学生からのレポート提出がスムーズにでき、また遠隔授業などに際しては、教員—学生間はもちろん、学生間でのディスカッションも可能となっている【資料3-1-1】。

〔取り組み上の課題〕

学生の内的な問題意識を活性化させるための導入や授業刺激等、各教員の授業内容をさらに検討していく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：東京未来大学教員ハンドブック
- ・資料3-1-2：本学公式ウェブサイト

⑦教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。

〔現状説明〕

本学では、教育実習の履修条件を設定し、教育実習の前提となる専門的知識・技術の修得が図られるよう履修が計画されている。また、教育実習の実施は、保育・教育実習委員会で審議・承認を経て行われている【資料3-1-1】。

さらに教育実習事前・事後指導は授業時間として時間割上、確保されており、教育実習に向けた指導が年間を通じて継続的に行われている【資料3-1-2】。

〔長所・特色〕

こども心理学部では、2・3年次に保育・教育ボランティア実習を設定し、学校の現場で実践的な学びが得られるようにしている。

〔取り組み上の課題〕

モチベーション行動科学部において、学校現場で体験的な学びが得られる仕組み作りが求められる。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：学生便覧・履修の手引き
- ・資料3-1-2：時間割

⑧「履修カルテ」等を用いて学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。

〔現状説明〕

本学の教職課程の学修成果を高めるための工夫としては、次の観点から指導をしている。第一に、「学生便覧・履修の手引き」を作成し、これに基づいて各学年の「教職ガイダンス」において、本学で目指すべき教師像、教師に求められる資質・能力、教職課程の履修方法、教育実習等について指導している。第二に、履修カルテを用いて、教職課程の履修について学生自身に自己理解や自己管理、自己成長を促し、教職を目指す者として取り組むべき課題等の気づきを促している。また、教職実践演習において履修カルテを用いながら、教職を目指すべき者として必要な資質や能力、知識や技能等の課題等について、自己省察をしながら総合的な指導を行っている。

〔長所・特色〕

こども心理学部では、「教職実践演習」の全ての授業回を履修カルテと結び付けて省察している。

モチベーション行動科学部では、「教職実践演習（中・高）」においては、特に第1・2回において履修カルテを活用し、履修カルテの確認、自己の到達点と課題の確認等を行っている。

【資料3-1-1】【資料3-1-2】

〔取り組み上の課題〕

モチベーション行動科学部における「教職実践演習（中・高）」では、履修カルテの活用が第1、2回と限定的なことがあり、今後は本科目全体を通して履修カルテを用いながら学生自身の自己省察に繋げていくことが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：学生便覧・履修の手引き
- ・資料3-1-2：シラバス

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

①取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。

〔現状説明〕

取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会は次のとおりである。

実習指導や教職キャリアガイダンスにおける機会を設定している。小学校教職課程では、各学期において各週に開講されている教職キャリアガイダンスの中で、板書指導や集団討論などの教師としての指導力を高めるための実践的な教育を実施している【資料3-2-1】。同様に、中学・高等学校教職課程でも、教職キャリアガイダンスの中で現職中学校教員の講話や場面指導などの教育プログラムを実施し、教師としての実践的指導力のあり方について考えさせる機会を設けている【資料3-2-1】。幼稚園教職課程では、「教育実習指導Ⅰ（事前・事後）（幼）」、「教育実習指導Ⅱ（事前・事後）（幼）」において、現役幼稚園長の講話や指導案の作成、記録の作成方法を実施することで、実践的指導力を育成する機会を設けている【資料3-2-2】。

保育・教職センターでは、各種講座や実践的指導力を育成するための個別指導を実施している。現場経験豊かな保育・教職センター特任教員が中心となり、教員としての実践的指導力を高められるような各種講座を開講している【資料3-2-3】。また、教育実習前に、希望者に対してピアノの指導や指導案の作成、模擬授業の助言などの個別指導を行うことで、随時、実践的指導力を高める機会を設けている。

〔長所・特色〕

各学部並びに保育・教職センターにおける運営管理のもと、実務経験の豊かな保育・教職センター特任教員が中心となって、教員としての実践的指導力を高められるような各種講座が開講されている。よって、各学部と保育・教職センターの監督下において、そのような人材並びに機会のスムーズな確保が保障されている。

〔取り組み上の課題〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：保育・教職課程委員会資料
- ・資料3-2-2：シラバス
- ・資料3-2-3：保育・教職センター会議資料

②様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）とその振り返りの機会を設けている。

〔現状説明〕

体験活動については、各教職課程において次の取り組みがなされている。

こども心理学部こども心理学科こども保育・教育専攻では、足立区の保育施設及び小学校と連携し、1年次の夏に1日保育・教育体験を行っている【資料3-2-1】。小学校教職課程では、足立区と連携し、2年次から足立区の小学校で計50時間以上、子どもたちの学習サポート役としてボランティア実習を行っており、また当該授業科目を通じた振り返りを実施している【資料3-2-1】。これらの活動では、毎年度に「足立区小学校教育実習連絡協議会」にて、学生の小学校でのボランティア活動に関する振り返りや情報共有の機会が設けられている【資料3-2-2】。

モチベーション行動科学部における中学・高等学校教職課程では、2年次から3年次において近隣中学校でのボランティア活動を行っており、また、教職キャリアガイダンスを通じて総括を行っている【資料3-2-1】。

小学校並びに中学校教職課程における介護等体験では、時間割に組み込んで事前事後指導を実施しており、それを通じて振り返りを実施している【資料3-2-3】。

〔長所・特色〕

小学校教職課程は、毎年度に「足立区小学校教育実習連絡協議会」を開催しており、小学校教職課程の学生のボランティア実習に関する振り返りや情報共有が行われている。また、小学校教職課程におけるボランティア実習は、当該ボランティア実習のための事前事後指導を主な内容とする「保育・教育ボランティア実習」の履修が必須とされている。

〔取り組み上の課題〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：本学公式ウェブサイト
- ・資料3-2-2：足立区小学校教育実習連絡協議会開催のご案内（依頼）
- ・資料3-2-3：学生便覧・履修の手引き（通学）

③地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。

〔現状説明〕

「教育実習事前事後指導」並びに「教職実践演習」の授業において、外部講師（現職の幼稚園教諭・小学校教諭ほか）を招聘するとともに、足立区公立小学校でのボランティア実習において、地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新事情について学生が理解する機会を設けている。

【資料3-2-1】【資料3-2-2】

〔長所・特色〕

本学では、実習連絡協議会で得られた最新情報や教育実習事前事後指導、教職実践演習の授業での外部講師の講話により、講義・演習での学びの機会と、足立区公立小学校でのボランティア実習を通して自ら学ぶ機会の両側面を提供できている。

〔取り組み上の課題〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：シラバス
- ・資料3-2-2：こども保育・教育専攻会議資料

④大学ないし保育・教職センター等と教育委員会等（外部組織）との組織的な連携協力体制の構築を図っている。

〔現状説明〕

幼稚園教職課程では、「保育・教育実習連絡協議会」において継続的に実習及び専門職者としての幼稚園教諭の育ちを支える意見交換を行い、実習指導に役立てている【資料3-2-1】。小学校教職課程は「足立区小学校教育実習連絡協議会」を実施し、本学の教育に関する評価、懸案事項等に関する意見交換を実施し、実習指導に役立てている【資料3-2-2】。また、小学校教職課程は、社会福祉法人東京都社会福祉協議会や東京都教育委員会との連携の上、介護等体験を実施している【資料3-2-3】。

中学校・高等学校教職課程は、足立区中学校校長会と関係性を築くために、今後を見据えた動きをしている【資料3-2-4】。足立区の中学校の校長会と連携をしながら、学生の学校体験やボランティア体験の受け入れ依頼に関する協議、及びボランティア体験を実施希望のある学生と中学校とのマッチングを実施予定である。

〔長所・特色〕

幼稚園、小学校の実習においては、教育実習連絡協議会等の機会を活用し、実習教育の充実や改善を図っている。また、中学校・高等学校については、現在、近隣の学校との連携を図り、実習に役立てている。

〔取り組み上の課題〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：保育・教育実習連絡協議会のご案内
- ・資料3-2-2：足立区小学校教育実習連絡協議会開催のご案内（依頼）
- ・資料3-2-3：社会福祉施設介護等体験希望申込書
介護等体験依頼申込書
- ・資料3-2-4：学校体験・ボランティア受け入れのお願い

⑤保育・教職センターと教育実習協力校とが教育実習の充実を図るために連携を図っている。

〔現状説明〕

本学の教育実習は、幼稚園、小学校、中学校または高等学校にて行っており、各教育実習協力校と連携している。幼稚園並びに中学校または高等学校における教育実習では、学生が自ら開拓を行った幼稚園・中学校または高等学校で実習を行っているため、学生の開拓先教育実習校と連携している。小学校における教育実習では、足立区教育委員会の協力のもと、足立区内の小学校が教育実習協力校として連携している。

具体的な連携方法は次のとおりである。

教育実習期間における教育実習協力校への巡回訪問を行っている【資料3-2-1】。教育実習期間は、保育・教職センター特任教員をはじめ、全教員が手分けして各教育実習校に巡回訪問を行い、本学学生の実習状況や実習態度、実践的な指導力、児童生徒の理解、教師との関係等について把握するとともに、今後の学生指導に活かしている。特に小学校の教育実習では、足立区内の教育実習協力校には1校につき3回の巡回訪問、ボランティア実習は1校につき1回の訪問を行うことで、より綿密な協力体制を築いている。

教育実習の充実のために、毎年9月頃に「足立区小学校教育実習連絡協議会」、毎年3月頃に「保育・教育実習連絡協議会」を開催している。「足立区小学校教育実習連絡協議会」では、学長をはじめ、こども心理学部長、こども保育・教育専攻長、こども保育・教育副専攻長、小学校教育実習担当教員、保育・教職センター特任教員、担当事務職員が出席している。協議会では、教育実習やボランティア実習を振り返るとともに、教育実習の充実を図るために情報交換を行い、今後の学生の実習指導に活かしている。「保育・教育実習連絡協議会」では、保育・教職センター長をはじめ、幼稚園教育実習担当教員、保育・教職センター特任教員、担当事務職員が出席している。協議会では、教育実習を振り返るとともに、教育実習の充実を図るために情報交換を行い、今後の学生の実習指導に活かしている【資料3-2-2】。

〔長所・特色〕

足立区教育委員会の協力のもとで、足立区内の小学校での教育実習が実施されている。特に、教育実習に出る前のボランティア実習は学生の実践的指導力の向上につながるとともに、教育実習協力校からも高い評価を受けている。

〔取り組み上の課題〕

特になし

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-2-1：こども保育・教育専攻会議資料
- ・資料3-2-2：足立区小学校教育実習連絡協議会開催のご案内（依頼）
保育・教育実習連絡協議会のご案内

III 総合評価

本学の教職課程自己点検評価では、3つの基準領域について自己点検評価を行った。いずれの項目においても、本学の理念及び法令に基づく各種活動を行っていることが確認され、総じて適切な教職課程運営がなされていると評価し得るものと考えている。

通学課程のこども心理学部こども心理学科こども保育・教育専攻では、小学校教諭養成、幼稚園教諭養成が行われている。令和元（2019）年度入学生の小学校教諭免許取得希望者が増加して以降、現在もその推移を維持している。同専攻に所属する学生の約9割（前年度実績）が、小学校教諭免許あるいは幼稚園教諭免許を取得しているものの、教職への就職率は約3割（前年度実績）に留まることから、いかに教職への就職率を向上させるかが今後の課題となる。通学課程のモチベーション行動科学部モチベーション行動科学科では、中学校教諭（社会）・高等学校教諭（公民）養成が行われているが、近年の免許取得実績、就職実績ともに低迷が続いている。まず中高教員免許取得希望者の増加、これに伴う免許取得実績の向上、そして教職就職実績への流れを作ることが喫緊の課題となる。通信課程のこども心理学部こども心理学科では、小学校教諭養成、幼稚園教諭養成が行われている。毎年多くの免許取得者を輩出しているが、通信課程という特性上、教職教育及び実習指導が通学課程ほど行き届かないことも多い。今後において、免許取得者数を維持しつつ、そうした教育活動の質的向上が課題となる。

従来までは、教職課程を履修するための学生サポート、教職課程の運営と教育、教育実習の運営と指導、教職への就職支援などの業務は、各学部学科、保育・教職センター、エンロール・マネジメント局が各々の立場で行われてきた。しかし、今年度より保育・教職センター内に保育・教職課程委員会が設置されたことにより、教職課程に係る運営体制を一本化することが可能になった。これにより、本学の教育理念に基づく幼稚園、小学校、中高それぞれの教職課程教育の質を向上させ、より多くの有能な教員を輩出することを目指していきたい。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本報告書の作成にあたっては、令和4（2022）年10月に開催された東京未来大学自己点検・評価・改善委員会において、次の手順にて進めることを確認した。

第1プロセス

実施方針

教職課程に関する自己点検・評価は学校教育法に基づく内部質保証の一部として扱い、自己点検・評価同様、以下により、毎年度実施を原則とする。

- (1) 保育・教職センター（保育・教育実習委員会及び保育・教職課程委員会を含む）、学科、専攻は、恒常的に自己点検・評価に取り組むものとし、当該結果を原則として毎年度報告書としてとりまとめる。
- (2) 自己点検・評価の実施については、保育・教職センター保育・教職課程委員会が主導する。

第2プロセス

実施体制

- (1) 教職課程に関する自己点検・評価は、保育・教職センター保育・教職課程委員会が中心となり、同保育・教育実習委員会、学科、専攻、必要に応じて関係委員会との連携・協力のもと行う。
- (2) 教職課程に関する自己点検・評価の結果（報告書）は、保育・教職課程委員会、保育・教育実習委員会の審議を経て、自己点検・評価・改善委員会に諮り、決定する。

第3プロセス

結果（報告書）の取り扱い

- (1) 保育・教職センター（保育・教育実習委員会及び保育・教職課程委員会を含む）、学科、専攻は、自己点検の結果を踏まえ、教育の質の向上・改善を図る。
- (2) 保育・教職センター（保育・教育実習委員会及び保育・教職課程委員会を含む）、学科、専攻は、自己点検の結果を踏まえ、教育の質の向上・改善を図るため、その現状と課題を明確にし、次年度に向けた取り組み内容を精査する。
- (3) 教職課程の運営の可視化のため、自己点検の結果（個人情報など公表に相応しくない箇所を除く）は、東京未来大学ホームページにて公開する。

第4プロセス

課題抽出

東京未来大学保育・教職センター保育・教職課程委員会は、自己点検評価活動によって確認した課題を、大学全体の事業計画の一部として改善・向上に向けたアクションプランを策定する。自己点検・評価・改善委員会へ報告するとともに、学科・専攻と共有し、全学連携のもと改善・向上活動を進める。

その他、年間を通し、教職課程自己点検・評価を踏まえた教職課程にかかる見直しについて、適時検討精査するものとする。

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人 三幸学園					
大学・学部名 東京未来大学 こども心理学部					
学科・コース名（必要な場合） こども心理学科 こども保育・教育専攻					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数					176
② ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）					164
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も1と数える）					155
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）					43
④のうち、正規採用者数					35
④のうち、臨時的任用者数					8
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	特任教員
教員数	8	12	7		9（保育・教職センター）
エンrollment・マネジメント局実習係3					

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人 三幸学園					
大学・学部名 東京未来大学 こども心理学部					
学科・コース名（必要な場合） こども心理学科 通信教育課程					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数					186
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					—
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					123
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					34
④のうち、正規採用者数					19
④のうち、臨時的任用者数					15
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	通信教育課程特任教員
教員数	6	3	3		6
エンロールメント・マネジメント局通信教育部実習係 2					

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人 三幸学園					
大学・学部名 東京未来大学 モチベーション行動科学部					
学科・コース名（必要な場合） モチベーション行動科学科					
1 卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業生数					56
② ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）					52
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も1と数える）					0
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）					0
④のうち、正規採用者数					0
④のうち、臨時的任用者数					0
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	特任教員
教員数	6	7	4		9（保育・教職センター）
エンrollment・マネジメント局実習係3					